

2026 年 9 月 17 日

東洋冷蔵株式会社

日本水産学会シンポジウムで講演 持続可能なマグロ産業のあり方を提言

東洋冷蔵株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役社長：三谷 泰雄）は、2026 年 9 月 14 日、東海大学海洋学部 静岡キャンパスで開催された「令和 8 年度 日本水産学会 秋季大会」のシンポジウムにおいて、当社執行役員 鮪鯉事業本部長の加藤 得裕が登壇し、日本におけるマグロ流通の変遷と、持続可能なマグロ産業の実現に向けた流通事業者の役割について講演しました。



講演の様子



当社執行役員 鮪鯉事業本部長 加藤 得裕

<講演の概要>

当社は、「日本におけるマグロ流通の現状と持続可能なマグロ産業を未来へつなぐ取り組み」をテーマに講演を行いました。講演では、日本のマグロ流通の歴史を振り返り、超低温コールドチェーンの確立が刺身マグロの消費機会を広げてきたこと、また回転寿司の普及により、流通の役割が「水揚げされた魚を販売する」ことから「需要を見通して供給を組み立てる」ことへ変化してきたことを紹介しました。

現在、マグロ市場は日本中心から世界市場へ、調達も天然マグロ中心から天然マグロと養殖マグロを組み合わせる形へと変化しています。こうした環境変化の中で、限られた天然資源を有効活用し、一尾を余すことなく価値につなげることで、資源保全と産業の持続性の両立を図ることが、流通事業者求められる重要な役割であると説明しました。

また、天然マグロの持続的な供給には、資源管理や持続可能な調達に加え、漁船の老朽化や乗組員・後継者不足、燃油価格の高騰など生産基盤が抱える課題への対応も欠かせません。消費者にとって納得感のある価格と、生産者が持続的に操業できる価格の両立が、持続可能なマグロ産業を支える上で不可欠であることを説明しました。

結びでは、持続可能なマグロ産業を未来につなぐために、流通事業者が果たすべき 3 つの役割として、次の考え方を提示しました。

- 資源を守る : 科学的に管理された資源の有効活用
- 価値を高める : 国内外の需要を組み合わせ、一尾を余すことなく活用
- 再生産を支える : 生産者が次の航海へ出られる収益・操業基盤を支える



超低温技術が供給を広げ、回転寿司が需要を広げてきた歴史を踏まえ、今後は「資源を守り、価値を高め、再生産を支える」ことが、持続可能なマグロ産業の未来につながることを発信しました。

当社は今後も、仕入れから保管・加工・物流・販売まで水産物の流通全体に深く関わる水産総合商社として、限りある水産資源の価値最大化と持続可能なサプライチェーンの実現に取り組むとともに、産学連携や情報発信を通じて、マグロ産業をはじめとする水産業の持続的な発展に貢献してまいります。

<お問い合わせ先>

東洋冷蔵株式会社 広報・CSR 室 TEL : 03-5620-3200 MAIL : tore-qa@toyoreizo.co.jp